

## 自己評価報告書

平成23年 4月 20現在

機関番号：13801

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20530459

研究課題名（和文） 産業メンタルヘルスの社会学的研究

研究課題名（英文） Sociological Studies of Occupational Mental Health

研究代表者

荻野 達史 (Tatsushi OGINO)

静岡大学・人文学部・准教授

研究者番号：00313916

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：産業精神保健、精神医療、労働、心理学化

## 1. 研究計画の概要

産業精神保健、あるいは「職場のメンタルヘルス」への対応が進められることについて、それがどのような社会的な機能や意味を持つのかを多角的に検討する。具体的には、メンヘル専門家集団、企業等組織体、社員・職員層にとっての意味を、医療化・心理学化という観点に限らず、記述・分析していくものである。

## 2. 研究の進捗状況

(1) まず、産業精神保健が取り込まれ始めた1950年代以降の歴史をとりまとめることが完了した。方法としては、医療系専門誌・書籍、労働法・労働災害に関わる雑誌・書籍、各種行政審議会等の議事録など文書データを大量に収集し逐次的に検討していった。その結果、医療等専門家および行政の取り組み方を基準として、4つの時期に分け、第Ⅰ期とⅡ期、第Ⅲ期、第Ⅳ期と3本に分けて論文を執筆した。これによって、現在に至るまで、産業精神保健への社会的取り組みを促した背景、逆に抑制した背景が確認され、同時に医療・企業・行政関係者が、この問題についてどのような意味づけを行ってきたのか、どのような点に見解の相違があるのか、将来に向けて検討されるべき課題はどのようなものがあるのか、かなり明瞭に捉えられるようになった。なお、2009年秋に日本社会学会にて概要を報告している。

(2) 次に、専門家・企業関係者の間でとくに近年問題とされる若年層についてのフィールドワークを継続している。支援者および当事者へのインタビューを行い、一定のデータが蓄積されてきた。この問題領域では、と

くに「現代型うつ病」が注目されやすいが、就労支援機関のフィールドワークを通して、それに限られない問題も把握されている。

(3) メンタルヘルスに影響を与える社会的趨勢として大きく注目されている「個人化」論についての検討も進めている。具体的には、他の研究者とプロジェクトを立ち上げ、代表的論者である U.Beck のこのテーマに関する論文集 Individualization の翻訳を進めている。報告者の担当部分は下訳も完成し、監訳者が現在最終的な確認を行っている。ミネルヴァ書房より本年度中の出版を目指している。

(4) 職場のメンタルヘルスについての計量的研究も予定されている。昨年より、勤務地である静岡の教職員組合の研究活動に協力しているが、本年度は教員のメンタルヘルスについての調査票調査を実施する予定である。

## 3. 現在までの達成度

②概ね順調に進展している。

申請時の計画に比べれば、企業についてのフィールドワークは必ずしも進んでいないが、医療・労働両分野にまたがる歴史的検討は充実したものとなり、また分析視角の検討は重要文献の翻訳プロジェクトへと発展するなど、総体として確実な進展を見せている。なお、既に web 上で公開されている、上述の歴史分析論文(1)は、現在多方面で参照されており、すでに一定の成果を示すものである。

## 4. 今後の研究の推進方策

(1) 企業のメンタルヘルス対応については、これまでの歴史研究を踏まえて、とくに産業

医への聞き取り調査を重点的に行う。5～7の企業の産業医（精神科産業医も含め）を企業規模等を検討した上で抽出し、実施したい。

(2) 学校教員のメンタルヘルス調査は、教員ストレスが主たる調査項目となる。本研究の視点からも意義深い項目も加えつつ、現場の教員の意見を踏まえた調査票を作成することがまず求められる。本年度中には、基礎集計の段階まで進められる予定である。

(3) 若年労働者についての調査も継続し、個人化の趨勢との関わりも検討していく。

(4) 1については、報告書、ないしは論文にまとめていく予定である。3については一部、現在執筆中の書籍に含めていく予定である。また、進捗状況で言及した翻訳書の刊行を他研究者とともに進めていく。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

① 荻野達史、「産業精神保健の歴史(2)」『人文論集』(静岡大学) 62(1), 2011年(印刷中)、査読無.

② 荻野達史、「産業精神保健の歴史(3)」『人文論集』(静岡大学) 62(1):15-53. 2011年(印刷中)、査読無.

③ 荻野達史、「産業精神保健の歴史(1)」『人文論集』(静岡大学) 60(2):15-53. 2010年、査読無.

リポジトリ

<http://ir.lib.shizuoka.ac.jp/handle/10297/4856>

[学会発表] (計1件)

荻野達史、「産業精神保健の歴史」, 日本社会学会大会、医療保健部会、2009年10月11日、立教大学.